

## 第3学年 音楽科 学習指導案

奈良教育大学附属小学校 教諭 水谷 礼佳

### 1. 単元名

地域のお話をもとになった音楽（歌）  
ーアイヌの民話をもとに作られた音楽劇『オキクルミと悪魔』ー

### 2. 単元の目標

- オキクルミが人々のために熊やアメマスと戦うことを歌詞からわかり、明るい元気な声で歌わせる。  
(知識及び技能)
- 曲想（音の高低、速さ、調性）からそれぞれの場面にあった表現を考え、歌うことができる。  
(思考力・判断力・表現力)
- 『オキクルミと悪魔』のお話やアイヌの文化に関心を持ち、主体的に歌うことができる。  
(主体的に学習に取り組む態度)

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

本題材は、全22曲からなる、アイヌの民話をもとにして作られた音楽劇である。作曲者は丸山亜季、作詩者は夫の木村次郎である。丸山は、「子どもたちに本物の音楽を伝えたい」という思いから、たくさんの歌曲を作曲し、全校の学校、保育園で音楽教育の指導を行った人物である。

アイヌとは、古くから北海道、樺太（サハリン）、千島列島、東北北部に居住し、狩猟採集をして暮らしていた民族である。アイヌは「人間」を意味するアイヌ語で、彼らは独自の言語は持つが、文字は持たない。アイヌの信仰では、この世界は人間とカムイ「神様」とが互いに関わりあい影響を及ぼしあって成り立っているという独特な考えがある。カムイは絶対的な存在ではなく、人間にとってためになる存在なのだ。また、アイヌにとっての守護神であり、生活を教えてくれるアイヌラックル「人間の神様」がオキクルミである。アイヌ語で語られたカムイユーカラ「神が自ら語る物語」を日本語に直し、絵本の文章にするために手を加えることなどによって、アイヌのことやカムイ、オキクルミのことが現代の人々にも知られている。

もともとアイヌは和人とさかんに交易を行い、対等な関係性であったが、江戸時代に入り急変し、多くの戦いの末、明治時代に日本に組み込まれる基盤が作りあげられたという歴史がある。2019年には、「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」アイヌ新法が成立し、先住民族としてはっきりと位置づけた。2020年には、アイヌの歴史や文化をテーマとした国立アイヌ民族博物館およびウポポイ（民族共生象徴空間）がオープンした。近年、アイヌの文化や伝統を伝え、広める活動が目立つようになってきている。

本題材は、『丸山亜季歌曲集4』に収められており、3つ場面で構成されている。①はオキクルミが熊をたおす場面、②はオキクルミがアメマス（悪魔の手下）をたおす場面、③はオキクルミが悪魔とたたかう場面である。この中から、子どもたちとは①と②の場면을学習する。①で扱う6曲『荒熊親分の歌』『ゆうべみた夢』『黒熊親分の歌』『家の右座の』『よくよく見れば』『さればされば』は、セリフに音をつけたような短い曲や最高音が上のC、D音の曲が多く、3年生の子どもたちにとってはとりくみやすい。それに対して、②で扱う3曲『アメマスひるねのそのひまに』『アメマスとのたたかい』『日にかがやくオキクルミよ』は、今まで学習してきた中で一番音域が広く、歌いにくさもあると感じるが、子どもたちにとっては挑戦したくなる曲だろう。『アメマスとのたたかい』では、第3線より上の音（最高音の上のF音を含む）が用いられ、オキクルミの力強さや、度重なる音の跳躍からアメマスの暴れる

様子を感じることができる。本題材は曲によって、音域や速さ、調性（短調・長調）等に違いがあり、それぞれの場面を曲想から考えることができる。また、お話があることで、お話の内容を支えにしながらとりくむことができる。

## （２）児童観

本学級の子どもたちは音楽が好きな子が多く、学習してきた曲を他の授業の時にも口ずさんだり、校外学習に行く道中で大合唱したりと日々のくらしの中でも歌っている。音楽の授業では、リズムに合わせて身体や頭を動かしたり、飛び跳ねたりする姿があり、音楽を感じ、全身で表現している様子が見られる。特に1学期に歌った『あんばんるぬゆんた』（作曲者：丸山）は、小曲がたくさんあることでとりくみやすく、“歌えた”“できた”をつみ重ねることができた。また、少しずつお話が繋がっていき、そのたびに新しいカニが出てくることもあり、「もっと歌いたい」という声がたくさんあった。1学期の終わりには、「自分たちの歌声を聞いてほしい」「自分たちのがんばりを知ってほしい」という思いから、全校集会で発表し、歌に対する自信やがんばりたい思いが強まった。『あんばんるぬゆんた』は、沖縄の八重山の民話をもとにして作られたもので、音の使い方や独特のかけ声から文化の違いを感じとっていた。1学期はアンパル（沖縄）、2学期はアイヌ（北海道）と同じ日本でも音楽や文化の違いを自分たちが歌うことを通して知り、考えていってほしい。

## （３）指導観

本単元の指導にあたっては、まず歌詞や旋律を把握できるようにとりくませる。アイヌのお話であることや古い言葉も使われており、子どもたちになじみのない言葉（オキクルミ、頓馬、おのこ、ろぶち等）も出てくるため、意味を確認しながら進めていく。

歌えるようになってきたら、曲ごとにどんな場面かを曲想や歌詞から考えさせる。曲想と歌詞が関わりあっている部分もあるので、子どもたちが曲想を感じとりやすい部分を扱い、音楽面からも考えられるようにしたい。例えば、『アメマスとのたたかい』では、旋律が上がっていることや曲の中で1番高い音が使われていることからオキクルミの力強さを感じとらせたい。

また、音楽の授業だけではなく、国語の授業では、アイヌの文化に出会う機会を並行してつくってきたい。3年生にとって、アイヌの文化について知り、考えていくことは難しい。そのため、暮らしに焦点をあて、自分たちの暮らしとの違いに出会わせるために絵本の読み聞かせを行う。

○北海道の風景や海や陸、川に住む動物などの自然の様子に出会わせる。

○カムイ（神様）に対する考え方の違いに出会わせる。

○いろんなサケへ（くり返される言葉）があることに気づかせる。

○オキクルミという人物（力強さとかしこさ）をわからせる。

○イオマンテ（熊送り）信仰に出会わせる。 など

音楽では、曲想を感じとった部分からそれぞれがどんなふうに歌いたいかを考え、少し意識して歌えるようにしたいと思っている。自分が歌ったり、友だちの歌を聴いたりすることで、それぞれの考えや歌い方を知り合い、よりこの曲に思いを寄せられるような授業を目指している。

最終的には、全校集会（知り合おう会）に出るといふかたちで全校に『オキクルミと悪魔』のお話を歌声とセリフで表現したい。アイヌ文化を学ぶ前と後では、歌い方がかわってくると考えている。全校はアイヌのことを学んできていないため、聞いている人にアイヌの世界観が少しでも伝わるように、クラス全体でとりくんでいきたい。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

- ・ 多様性：アイヌ民族独自の文化の中には、今の自分たちの暮らしとは違うこともあるということ。  
いろいろな文化や人の生き方があるということ。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

- ・ 多面的・総合的に考える力

言葉や服装、考え方の違う人が自分たちの国にいること。みんな人間であるということは同じであること。違いを知ろうとすることが大事であること、その違いを認め合って生きていくということ。違いに出会うからこそ、自分たちの自身の見方がかわったり、新しく見えてきたりするものがある。

- ・ 他者と協力する態度

熊とオキクルミの役に分かれて歌ったり、全員がセリフを一人で言ったりすることで、クラスのみんなで協力して、一つの作品を仕上げようとする。それぞれが自分の役やお話の流れをわかって、自分の任されたところに責任を持って関わろうとする。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

- ・ 人権・文化を尊重する。(文化多様性の尊重)

自分たちと異なる文化に出会い、批判するのではなく、互いに認め合い、気持ちよく過ごせるように考えていく。

- ・ 幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

学校だからできる、安心できるなかまと共に声を合わせて歌えることの喜びを感じる。

誰かに認められることの嬉しさを実感し、自分たちもそれを与えることができるということを知る。

- ・ 達成が期待される SDG s

目標 1 0

人や国の不平等をなくそう：自分たちの暮らしとは違うアイヌ民族独自の文化を知り、尊重する。

目標 1 6

平和と公平を全ての人に：文化や信仰の違いを認め合い、自然と共生する。

4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
①曲想(調性、速さ、音の高低)を感じとって、1つ1つの曲がどのような場面の曲かを理解し、歌う。 ②アイヌのお話や文化を知る。	①曲想(調性、速さ、音の高低)を感じとって、どのように歌ったらいいかを考えることができる。 ②それぞれの場面にあった歌い方ができる。	①アイヌのお話や文化に興味や関心を持ち、読み聞かせを聞いたり、図書室にある本を読んだりしようとしている。 ②『オキクルミと悪魔』に思いを寄せ、歌おうとしている。 ③自分たちの学んできたことを全校やおうちの人に聞いてもらえるように発信しようとしている。

5. 単元の指導計画（全14＋6時間）

次	○主な学習活動	○学習への支援	評価
1	○歌詞・旋律を把握する。 1. 初めて聞いてどんな感じがしたか出し合う。 2. 少しずつ区切って歌う。 3. わかりにくい言葉を確認する。 4. 通して歌う。	○初めて聞く言葉があったり、速い曲があったりして歌詞がわかりにくいので、はっきり範唱するようにする。  ○1人や2人で歌って、自分たちの歌声を聞き合ったり、がんばりを知り合ったりできるようにする。	
2	○曲ごとにどんな場面か考える。 1. 曲想からどんな感じがするか。 ・ちょっとおそくてリズムは山を下る感じがでてる。 ・くまがのしのしくるかんじ。 ・ばかにしているから口がはやいからはやい。 ・「プッバカだなー」みたいなかんじ。 2. 誰がどんな場面で歌ってるか。	○曲ごとに考えさせたい曲想をしぼって注目させる。  ○歌詞やお話の流れから考えさせる。	ア① (知・技)
3 国 語 と し て	○アイヌの文化に出会う。 ○絵本の読み聞かせを聞く。 ・不思議な言葉が何回も出てくる。 ・神様やのに神様っぽくない。 ・自然がいっぱい。冬は寒そう。 ・熊を子どもみたいに育てるのはきもい。	『イソプカムイ』（ウサギ） 『ケマコツネカムイ』（キタキツネ） 『エタツペカムイ』（トド） 『ちいさなおキクルミ』 『オキクルミのぼうけん』 『風の神とおキクルミ』 『クマと少年』など	ア② (知・技)  ウ① (主体的)
4	○どんなふうに歌いたいかを考えて歌い深める。  ○役ごとに分かれて歌ったり、セリフを入れたりして、お話を繋げる。	○1人や2人で歌って、自分たちの歌声を聞き合ったり、がんばりを知り合ったりできるようにする。  ○歌いたい思いが膨らむように、自信をもてるように声かけをする。	イ①② (思判表)
5	○全校集会で発表する。 ・みんなの前で歌うのは緊張するけど、しっかりお話を伝えたい。 ・自分たちの歌声を知ってほしい。 ・感想を伝えに来てもらって、しっかり伝わったとわかった。 ・みんなで歌えて楽しかった。	○聞いていた人の感想と出会わせる。 ・熊と勇者の歌だとわかった。 ・クラスの半分で役に分かれて歌っていたけど、しっかり声が出ていてすごい。 ・足をドンドンならすのは、何のためだったんだろう。 ・高い所がきれいに響いていた。	ウ②③ (主体的)  ア① (知・技)